

正式には文殊菩薩もんじゅぼさつと言う、文殊さまは、「三人寄れば文殊の智慧」ということわざにありますように、智慧をつかさどる菩薩様です。

文殊さまは実在の人物ではありませんが、モデルとなった人物が存在するといわれています。古代インドのコーサラ国の首都であった舎衛国しゃえいこくのバラモン階級の方で、お釈迦様の十大弟子とも親しく、仏教の経典をまとめる作業をしたとされています。

その方の智慧の深さ故か、文殊さまは後に様々な伝説を生み出しました。『維摩経』ゆいまきょうでは維摩居士ゆいまこじと問答を交わしたり、『華嚴経』けごんきょうでは善財童子ぜんざいどうじを進むべき修行の道に誘うなど、智慧の象徴として、信仰の対象となっていきました。

中国では、仏教が伝えられて以来、中国の中部、山西さんせいしやう省東北部にある五台山ごたいさんが、文殊菩薩が住むとされる、仏教の聖地となっています。現在では世界文化遺産に登録されています。五つの山頂にそれぞれお寺が有り、文殊菩薩が説教をする場所とされているそうです。

日本のお寺では釈迦三尊しゃかさんぞんとして、本堂中央正面にご本尊のお釈迦様、向かって右側に獅子ししの背に乗り蓮華座れんげざで結跏趺坐けっかふざを組み、右手には智慧の象徴である宝剣ほうけん、左手には経典を持った文殊菩薩様、左側には白い象に乗った普賢菩薩ふげんぼさつ様をお祀りしているところが有ります。

そして、坐禅修行をする道場においては、獅子に坐った文殊さまが、修行僧の理想の姿で坐禅を組んだ『僧形文殊』そうぎやうという像をお祀りします。この場合は「文殊大士」だいしと特にお呼びして、おさとの道を歩むための智慧を、共に修行いたします。

『 禅のこころ - 曹洞宗 - 』

このように優れた智慧を具えた方の傍で修行したいと思うのは、今も変わりありません。そのような方が道を歩む友であればどんなに心強い事でしょう。

それには相應の志が無ければ会うことは出来ません。

また智慧だけでなく、修行の仲間を引っ張って行く力、人を見定める力量、統率力が必要なのが現代での「文殊さま」でしょう。そんな方に出会いたい、また自分もそうありたいものです。

— 終 —